

有害プランクトン情報 (令和2年度 - No. 4)千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所・生産技術研究室
千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によっては、魚類や二枚貝などに影響を与えるので、毎月1回有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

- | | | | | | | |
|-------|-------|-----------------------------------|----------|------|----------|------|
| ○ 調査日 | 沖合 | 7月 第1回 | 内湾 (8地点) | 7/12 | 内房 (7地点) | 7/13 |
| | | 7月 第2回 | 内湾 (8地点) | 7/21 | 内房 (7地点) | 7/22 |
| | 貝類漁場内 | 九十九里 7/8,16.20.21.30 (生産技術研究室が担当) | | | | |
| | | 千葉北部 7/20 木更津北部 7/3,21 | | | | |

東京湾(内湾)**【有害プランクトンの出現状況】**

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。
- 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH 8.5 以上, 酸素飽和度 150% 以上) は 7/12 (千葉沖) および 7/21 (富津沖を除く内湾の全域) の内湾の海域で確認されました。優占種は珪藻のセラチウム属、スケルトネマ属の他、渦鞭毛藻類のプロロセントラム属などで、いずれも有害プランクトンによる赤潮ではありませんでした。
※ シャットネラ属は 1 細胞/mL, シュードシャットネラ属は 100 細胞/mL, ヘテロシグマ属は 1,000 細胞/mL, カレニア属は 100 細胞/mL 以上で注意報を発出します。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

- 1 麻痺性貝毒原因プランクトン
 - アレキサンドリウム属等の貝毒原因プランクトンは確認されず、その後の検査も貝毒は検出されませんでした。
- 2 下痢性貝毒原因プランクトン
 - ディノフィシス アキュミナータは 7/12 の羽田沖～盤洲北部地点で見られました (最高密度は千葉沖の 6.4 細胞/mL)。また 7/21 には全地点で見られ、最高密度は千葉沖の 7.6 細胞/mL でした。
 - 同種は 7/20 の千葉北部 (0.15 細胞/mL) の貝類漁場内でも見られました。
 - ディノフィシス フォルティは 7/12 の羽田沖～盤洲北部の地点で見られました (最高密度はアクアライン北部、船橋沖の 0.15 細胞/mL)。また 7/21 には内湾の富津沖とアクアライン南部で見られ、最高密度は富津沖の 0.25 細胞/mL でした。
 - 貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

東京湾(内房)**【有害プランクトンの出現状況】**

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。
※ 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH 8.5 以上, 酸素飽和度 150% 以上) は確認されませんでした。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

- 1 麻痺性貝毒原因プランクトン
 - アレキサンドリウム属等の貝毒原因プランクトンは確認されず、その後の検査も貝毒は検出されませんでした。
- 2 下痢性貝毒原因プランクトン
 - ディノフィシス アキュミナータは 7/13 の大貫～保田沖の地点で見られました (最高密度は大貫沖の 0.15 細胞/mL)。また 7/22 には内房の全地点で見られ、最高密度は大貫沖の 2.0 細胞/mL でした。

- ディノフィシス フォルティは 7/13 の大貫～浦賀沖までの地点で見られました（最高密度は大貫沖の 0.15 細胞/mL）。また 7/22 には内房の全地点で見られ、最高密度は保田沖の 0.9 細胞/mL でした。
- その他のディノフィシス属が 7/13,22 に見られ、最大密度は 7/22 の 0.2 細胞/mL でした。
- 貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。

（貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載）

九十九里海域(旭～一宮沖貝類漁場)

【有害プランクトンの出現状況】

- シャットネラ属, シュードシャットネラ属, ヘテロシグマ属, カレニア属は確認されませんでした。
- ※ 赤潮（透明度 1.5 m 以下, pH 8.5 以上, 酸素飽和度 150 %以上）は確認されませんでした。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

1 麻痺性貝毒原因プランクトン

- アレキサンドリウム属等の貝毒原因プランクトンは確認されず、その後の検査も貝毒は検出されませんでした。

2 下痢性貝毒原因プランクトン

- ディノフィシス アキュミナータが 7/16 に見られ、密度は 0.05 細胞/mL でした。
- ディノフィシス フォルティも 7/16 に見られ、密度は 0.05 細胞/mL でした。
- その他のディノフィシス属が 7/16,20,30 に見られ、密度はいずれも 0.05 細胞/mL でした。
- 貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。

（貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載）

○ 各海域で見られたプランクトンの優占種

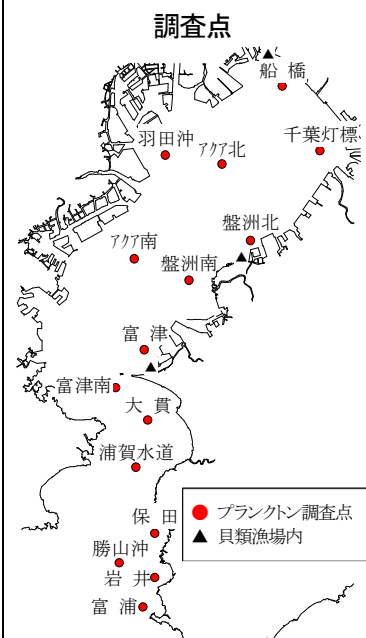
- | | | |
|---------|-------|--|
| 7/12,13 | 内湾・内房 | 珪藻 ケラチウム属, スケルトネマ属, キートセロス
渦鞭毛藻 プロロセントラム属 |
| 7/21,22 | 内湾・内房 | 珪藻 スケルトネマ属, ケラチウム属
渦鞭毛藻 プロロセントラム属 |



ケラチウム属
(7/12 盤洲北部)



プロロセントラム属
(7/21 盤洲北部)



連絡先：千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所
〒293-0042 富津市小久保 3091 TEL 0439-65-3071 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp